JR札幌病院広報誌

ほっとネット

2012 1 No.27

Contents

P1 巻頭言
ほっとネット2012年新年号挨拶
JR札幌病院　院長　安藤　利昭

P1 院外処方について

P2 診療科紹介
臨床検査室の紹介
「地域と職域から信頼される病院」を目指して
臨床検査室　技師長　久保　敬補

P3 診療科発
小児科　ゼロからの再出発？
小児科　主任医長　中山　雅之

P4 第2回JR札幌病院外科手術体験セミナー開催
～未来の外科医誕生～
外科　主任医長　鶴間　哲弘

P4 自己血糖測定：SMBGとは？
臨床検査技師　日本糖尿病療養指導士　松本　道明

P5 地域発
医療法人えんどう会創成東病院
医療法人えんどう会創成東病院　院長　森田　浩一先生

P6 当院における医療被曝について
中央放射線室　主任　井上　正住

そらちゃん＆はなちゃんシリーズ
“爪と健康”

クリスマスコンサート

ＪＲ札幌病院ものしりクロスワード当選者発表

「ドイツライン川沿いの古城」
巫河江副院長撮影

JR札幌病院
JR SAPPORO HOSPITAL

巻頭言 ほっとネット2012年新年号挨拶

JR札幌病院
院長
安藤　利昭

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災、原発事故という未曽有の大災害が発生し多くの尊い命が奪われ、また、いまだに多くの被災された方々が大きな苦悩を抱えながら生活されていることを考えますと心が痛むばかりです。その中で被災者の皆さまが力強く徐々に復興に向けて努力されている様子が報道されていますが、本年がそれらの方々にとって希望が持て、幸せを感じることができる一年となることを心よりお祈り申し上げます。更に、世界的にも多くの災害が多発したのみならず、政治経済においても、暗い話題が極めて多かったように思います。今年こそは明るい話題の多い年になることを願ってやみません。

さて、当院は今年、病院の建て替えに伴い延期しておりました日本医療機能評価機構（JCQHC）の受審を予定しております。診療の傍ら全職員が受審に向け病院としての質の向上、業務の効率化、診療の透明化等に鋭意努力して参りました。この過程を経ることにより皆様のより大きな信頼を頂ける一つのステップと考えております。患者様及び医療機関の諸先生のご信頼をより厚いものとし、当院にとりまして極めて重要な地域医療連携をさらに進めて参りたいと考えております。皆様のより一層のご支援を頂ければ幸いに存じます。

尚、当院は今まで一部の科のみで院外処方を行い、ご不便をおかけしておりましたが、本年4月より全科で院外処方と致します。それに伴い入院患者様の服薬指導を充実させ、服薬中の薬についてより分かりやすく情報をお伝えし、薬のより安心安全な服薬・管理のお手伝いをさせて頂きたいと考えております。

本年が皆様にとりまして健康で幸せな年になりますことを祈念申し上げます。

患者様へのお知らせ

院外処方について

平成24年4月2日（月曜日）より、
全ての外来診療科が「院外処方」に変わります。

○お薬が出る患者様に、「院外処方箋」をお渡します。
○保険薬局の看板のある保険調剤薬局に、「院外処方箋」を持参しお薬を受け取ってください
　院外処方は医薬分業を積極的に進めている厚生労働省の「かかりつけ保険薬局制度」の方針に沿うものです。病院機能を充実させ、医療の安全向上をはかるためにも必要と考え実施します。

患者様のご理解、ご協力のほどよろしくお願いします。

診療科紹介

臨床検査室の紹介

「地域と職域から信頼される病院」を目指して

臨床検査室
技師長
久保　敬補

当院病理科・臨床検査室は、10部門（生化学・血液・輸血・一般・EIA・免疫血清・細菌・病理・PCR・生理）を医師２名・臨床検査技師18名の体制で検査業務を行っております。また、当院は企業立病院ですので、JR職員の健診業務も行っております。

この度2011年９月を持ちまして、林技師長が任を降りられ健診業務専任となられ後を受けました。これに伴い主任体制も生理検査部門統括を市川主任に、検体検査部門統括を寺岡主任にお願いして新体制で出発しました。

当検査室の特徴と努力している点をいくつか述べさせていただきます。

ひとつは、生理検査部門で努力している部分ですが、本院は複数化受診する患者様が多くまた生理機能検査・放射線検査等を連続して複数の検査をされる方が多くおられます。この方々の待ち時間を少しでも少なくするため、検査の順番の調整・放射線科との連携を図って業務を進めております。また、業務の効率化を目指して、業務技術の習得にも頑張っております。

検体検査では、診療前検査等に対応するため、生化学自動分析装置を複数台導入、また、尿沈渣の自動機器を導入し迅速化に努めております。

また、アレルギー検査（特異型IgE検査）遺伝子検査（肝炎ウイルス・結核菌群・STD）などの特殊検査を院内検査として多く取り込んでおります。

細菌検査では、結核菌検査でガイドラインに沿って集菌法を行っており、また陽性時には遺伝子検査での確認を行うようにしております。

病理検査は、免疫染色に力をいれ確定診断の向上に努力しております。

輸血検査では、自動検査機器を導入しており、技師の手技による差をなくし確認のできる検査体制を進めております。

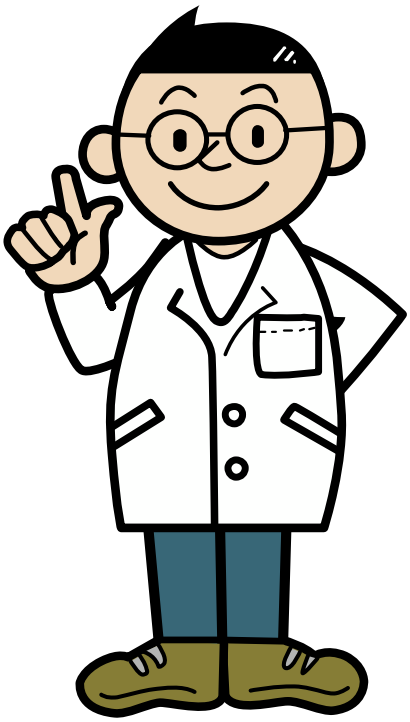
検査室全員、一丸となってそれぞれの部署・業務の中全力で創意工夫・努力しております。至らない点があるかと思いますが皆様よろしくお願い致します。

スタッフ集合写真

血液検査

生理検査部門

細菌検査



診療科発 小児科 ゼロからの再出発？

小児科
主任医長
中山　雅之

本年３月より小児科外来を再開した、中山　雅之です。昭和48年北大医学部卒という履歴から分かるように、若いとは言い難い年令です。実は５年ほど前まで、JR病院で勤務していたのですが、嘱託医という形で再就職しました。その間に小児科は閉鎖されており、正に「ゼロからの再出発」となりました。医師も小生一人ですし、以前のように急性期に対応するだけの体力も無く、次の小児科医が見つかるまでのセットアッパーという位置づけで考えています。

現在、次の２つの柱で診療中です。

一つは、細々と続けているアレルギー疾患、特に食物アレルギーについてです。一般的な診療に加えて、除去食解除のための食物負荷試験を行っています。子どもの食物アレルギーの場合、ある程度の年齢になると、それまでは駄目だったものが、食べても大丈夫なようになることがあります（アウトグロー）。原因検索のための負荷試験もあるのですが、リスクも高いので、即時型のもの（ジンマシン、アナフィラキシーの一部）についてアウトグローの確認のためのものを行っています。年長児では、何を食べるか事前に分かってしまうと、判断が不正確になってしまいます。この様な場合は、何を食べたかわからないシングルブラインド食物負荷試験を行なえるように準備中です。

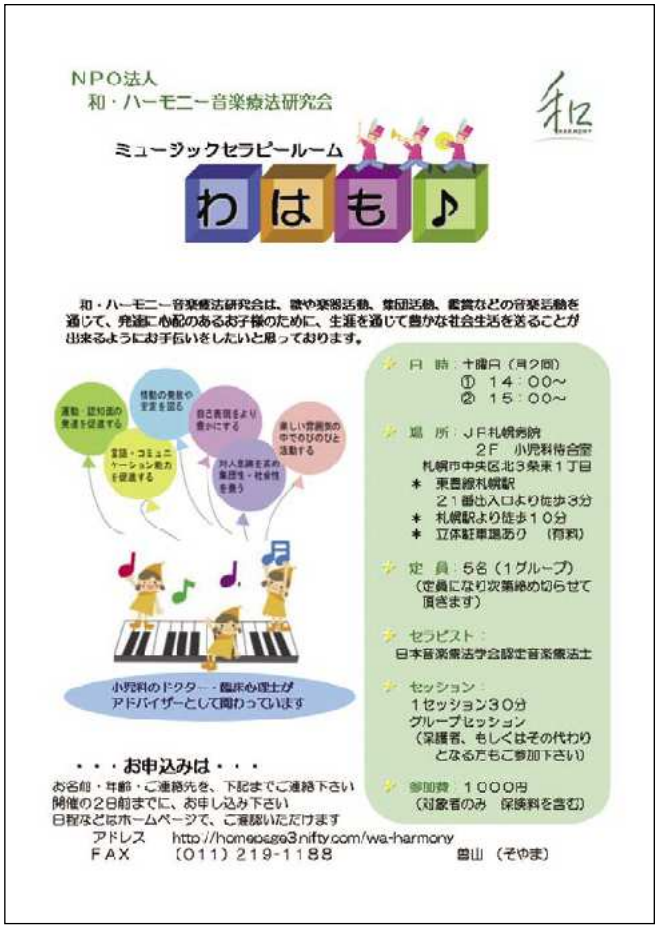
食物アレルギーでは、特効薬であるエピネフィリン（商品名エピペン）の自己注射が認められています。誰にでも注射できるように工夫されたもので、現在、保険も認められていますが、ある程度の練習は必要ですし、管理も比較的面倒なので、御相談ください。

もう一つは、小児精神発達外来です。

小児科医なら誰でも経験することですが、長年臨床をやっていると、心の問題を避けて通れない症例が積み上がってきます。小生は専門ではありませんが、幸い小児の診療に熱心な臨床心理士がおりますので、乳幼児・児童の発達、心の問題についての相談、援助を行っています。必要に応じて、小児精神科専門医に依頼しての診断、臨床心理士によるカウンセリングも可能です。

更に、その延長線上に和・ハーモニー音楽療法研究会を開催しています。音楽活動を通じて、発達に心配のある子供達が、豊かな社会生活を送れるようにお手伝いをするというコンセプトです。月２回、土曜日午後に小児科外来を利用して活動して貰っています。詳しくは、当院小児科ホームページをご覧ください。

小児科医の役割の一つに他科との連携があります。当院には他院に負けない水準の、放射線画像診断、口腔外科、耳鼻科をはじめ、ほぼ全科が揃っており、直接の御紹介をためらわれる場合には、小児科を通して頂ければ、適切な院内紹介が可能であると思います。



第2回JR札幌病院外科手術体験セミナー開催

～未来の外科医誕生～

外科
主任医長
鶴間　哲弘

平成23年12月3日（土）「外科手術体験セミナー」を開催しました。この会は、近隣の中学生をJR病院に招待し、手術室での外科手術体験を通して少しでも病院や外科医療を身近に感じて頂くという趣旨で開催され、今年で2回目となりました。

今年は、札幌中央中学校の生徒さん4名、札幌北辰中学校の生徒さん6名に参加していただきました。まずは、特殊な練習マシーンを使って腹腔鏡手術（従来のお腹を大きく切る手術ではなく、お腹に1cm程度の数か所の穴を開けてそこから特殊な機械を挿入し施行する手術）での繊細な手術手技を操作体験していただきました。初めは、慣れない操作に手間取っていた子供達も、練習を重ねるうちにみるみる上達し、子供の技能習得能力には驚嘆しました。次にいよいよ普段入ることはない手術室での実技体験に移りました。まずは、手術前の手洗いを手術室看護師の指導のもと実体験してもらい、その後、手術衣へ着替え手術衣姿で記念写真を撮影し、ミニ外科医誕生となりました。3グループに分かれ、手術で行う糸結び体験、超音波メスによる鶏肉の切開手術体験、手術シミュレーターでの手術（胆嚢摘出術）体験となりました。どの子供も目が輝いており、非常に興味を持って参加していただきました。本セミナーの終了後のアンケートでは、「将来なりたい職業は？」という質問に“医師”と回答した生徒さんが多数いました。将来、このようなセミナー参加をきっかけとして医師となってくれれば、非常にうれしいです。

昨今、このような病院主催のセミナーは盛んに行われるようになっておりますが、島根県ではキッズセミナーに参加した子供が地元の医学部へ進学したというケースも出てきており、子供の時の体験が将来への職業選択に影響をおよぼすこともあるようです。

今後もこのセミナーは継続していこうと思っておりますので、興味のあるお子さんの参加をお待ちしております。

自己血糖測定：SMBGとは？

臨床検査技師
日本糖尿病療養指導士
松本　道明

自己血糖測定(self-monitoring of blood glucose:SMBG)とは「自己血糖測定器」という簡単な器具を用いて、患者さん自身が血糖値を測ります。血糖自己測定は、インスリン療法を行っている患者様には欠かせません。

自己血糖測定を行うことで、日常生活を送る中での継続した状態に近い血糖値のモニタリングが可能になり、現在のインスリン製剤の使用量や注射を行う時間が適切かどうかわかります。

その結果、血糖コントロールが改善されやすくなり、しいては合併症の発症や進展防止に役立ちます。

穿刺器具と穿刺針

血糖測定器

地域発

医療法人えんどう会創成東病院

院長　森田　浩一先生

創成東病院は、94床（医療療養病床60床、障害者病床30床）の療養医療中心の病院です。3年前の平成20年11月に新築移転し、病院の名称を創成えんどう病院から創成東病院へ変更しました。

医師として、様々な慢性期疾患の患者さんの診療に従事し、少しずつ慢性期医療を理解出来てきました。20年以上大学病院で過ごしたこともあり、周りの専門医師へのコンサルトが容易に出来る環境に慣れていましたが、療養病床の医療環境の認識も出来てきました。

当院に入院中の慢性期の患者さんの多くの方には様々な疾患の合併があり、疾患についての認識を得るために、ここ数年で、かなりの勉強をさせていただきました。これは、まだまだ続いており、講演会や勉強会にも積極的に参加させて頂いています。疾患についての知識を高め、それぞれの患者さんにおいて、何を優先すべきか判断ができるようになってきたと思います。当院の入院患者さんから直接に本人の意向を聞くことは難しいことも多く、その場合は、出来る限りご家族と病状、経過、可能な治療について話し合いをして、患者さん本人とご家族の満足が得られるような対応に心がけています。

急性期、一般病床、療養病床の機能には、明らかな違いがあることについては、十分に認識しています。急性期の対応は専門の先生方にお願いする事も多々あります。このようなときに、迅速かつ親身な対応をして下さる、JR札幌病院の専門の先生方、地域医療連携センターのご担当の方々に支えて頂きながら、日々の診療をさせてもいただいています。

療養病床の入院患者さんの診療を担当している医師として、特に専門にこだわらない医療は療養病床に必要なのかもしれないと思うようになってきています。これは、周りで支えて下さる専門の先生方のご指導、ご協力の賜物と感謝しています。今後とも宜しくお願い致します。

医療法人えんどう会創成東病院
〒060-0053 札幌市中央区南3条東3丁目13番地
Tel　(011) 222－2117
Website　http://sousei-med.jp/

当院における医療被曝について

中央放射線室
主任
井上　正住

昭和20年8月に広島と長崎に原爆が投下されて以来、日本国民は「放射線」という言葉に恐怖心を懐いている方が多くいます。そして、もはや戦後とは言えなくなった平成16年1月、世界でもっともよく知られているオランダの医学専門誌「Lancet」論文に「日本人におけるがんの3.2%は診断X線による」という記述が掲載され、そのことを日本のメディアが大きく報道したことにより、当時の日本国民に深い衝撃を与えました。さらに今年3月11日におきた東日本大震災津波の影響による福島原発では放射能漏れを起こしており、避難されている方が数多くいる現在でも収束のめどが全く立っていないという状況があることなど、放射線に対する恐怖心を懐く方に対して、さらに拍車をかけているところです。

しかし、どのような状況であっても、診療に使用している放射線は患者様にとって欠かすことのできない有益なものでなくてはなりません。

放射線診療に携わる診療放射線技師の職域団体である（社団法人）日本放射線技師会では、「放射線診療における線量低減目標値－医療被曝ガイドライン」を示し、国際基準のIAEAガイダンスレベルより低く設定されており、安心で安全な放射線診療構築と医療被曝の最適化を推進しています。

当院でもこのガイドラインを守り、技術的にもできる限り患者様の医療被曝を減らすようにしています。

また、新病院へ移行してからは放射線情報システムにより、患者様の放射線検査と放射線量の履歴がすべて保存されています（下表の照射線量レポート参照）。

当院では、従来から診療放射線技師免許のほか、第一種放射線取扱主任者、作業環境測定士、放射線管理士の資格のある者も従事し診療にあたっています。

＜ 当院において患者様（成人）が受ける主な検査の医療被曝、単位(mGy) ＞

モダリティー	検査項目	JR 札幌病院	日本放射線技師会 ガイドライン 2006	備考
エックス線検査	成人胸部（正面）	≒0.2	0.3	
	成人頭部（正面）	≒1	3	
	成人頚椎（正面）	≒0.8	0.9	
	成人腰椎（正面）	≒2	5	
	成人腹部（正面）	≒2	3	
	成人手指骨	≒0.05	0.1	
	成人女子乳房撮影	≒1.8	2	平均乳腺線量(mGy)
CT検査	成人頭部単純	≒56.6	65	CTDIvol (mGy)
	成人腹部単純	≒17	20	
血管造影・IVR	心臓カテーテル（PCIステント留置術）	≒800	2000	透視時間≒10min、撮影 26 シーン程度、皮膚吸収線量(mGy)
アイソトープ検査	心筋血流(^{99m}Tc-MIBI)	600(MBq)	800(MBq)	投与量（MBq）
	骨(^{99m}Tc-HMDP)	555(MBq)	950(MBq)	
	腫瘍(^{67}Ga)	111(MBq)	190(MBq)	

胸部 CT 検査の照射線量レポート

Exam Information
Study ID:
Time: Dec 14, 2011, 12:31:24
Total DLP: 952.4 mGy*cm
Estimated Dose Savings: 18%

患者氏名: JR 花子
患者ID: 0000000
生年月日: 1900/○/△
性別: 女性

1つの CT 検査（プロトコル）において、X線量を照射した指標 ＝ **CTDIvol**（Computed Tomography Dose Index-volume）”

Dose

#	Description	Scan Mode	mAs	kV	CTDIvol [mGy]	DLP [mGy*cm]	Phantom Type[cm]
1		Surview	1	120	0.07	4.3	BODY 32 CM
1		Surview	1	120	0.07	4.4	BODY 32 CM
2		Helical	285	120	16.75	943.7	BODY 32 CM

〔人間の被曝に関する放射線の単位について〕

☆ **グレイ（Gy）**　：放射線が物質の体積要素中の質量に付与したエネルギーの量。物質 1 Kg あたり 1 ジュールのエネルギーが吸収されたとき、1 グレイ（Gy）の吸収線量であるという。放射線の影響は考慮せず、単に吸収された線量の表示として用いる。

★ **シーベルト（Sv）**：被曝した放射線量を人間の等価線量として表わす単位。放射線の影響を考慮し、人間の管理や防護のためにのみ用いられる単位。診断用X線による被曝は、Gy＝Sv（等価線量）となる。（1Gy＝1000mGy）

そらちゃん&はなちゃんシリーズ
“爪と健康”

そらちゃん「僕の爪を見てキモかわいい～？」

はなちゃん「爪は、皮膚の表面の角質層が変化したもので、ケラチンという硬いたんぱく質からできているいわば皮膚の付属物です。爪の変化は内臓からくる場合が多いんだよ！はなちゃんは肥満犬で栄養満点なんだけどな？また、爪は10日で1～2mm伸びるといわれてる」

そらちゃん「へえ～、どの指でも同じなの？」

はなちゃん「親指が一番成長が早くて小指が一番遅いんだ。爪の変化は鉄欠乏性貧血ではスプーンになったり、栄養障害があったりしたときは横溝ができたりするよ。爪甲の白い点は心配ないんだ、若い女性で、いつのまにか爪にポツンと小さな白い点が出ていることがある。爪がのびると、しだいに先端の方に移動していき、また、いつのまにか消えてなくなります。男性では比較的少なく、お年よりにもあまりみられません。これは爪甲自体におこる変化で、点状爪甲白斑という。爪が爪母でつくられるときに空気が入ったもので、病気とは関係なくドイツの女性は、これを“幸運の白い星”といい、恋人があらわれるといって、むしろ期待に胸をふくらませます。」

そらちゃん「ぼくのもそうかな？2本の爪が、白く濁っているよ！」

はなちゃん「それは爪の水虫です。縦の線は老化現象です、早く薬つけなさい」

そらちゃん「がちょーん！」・・・・ちょっと古いかな？

クリスマスコンサート

12月10日土曜日午後2時から1階ホールにて札幌市医師会混声合唱団によるクリスマスコンサートが開催されました。楽しいお話と素敵な歌声が響き渡り、ひと足早いプレゼントを頂くことができました。

ＪＲ札幌病院ものしりクロスワード

当選者発表

正解者の中から、下記2名の方に図書券を進呈いたします。

【当選者】
佐藤　和芳 様、メグちゃん（ペンネーム）

【解答】

1 キ	タ	2 カ	■	■	3 キ
タ	■	4 ナ	5 ラ	6 サ	ヨ
7 ノ	8 ロ	ウ	イ	ル	ス
9 カ	コ	■	10 チ	コ	ク
■	モ	■	11 ヨ	イ	■
12 ア	■	13 ノ	ウ	ド	ツ

編集後記

A Happy New Year!!
建設中のマンションが完成し、当院が陰に隠れてしまって、存在が薄くなった感があります。そんな思いがあったからか、石狩街道を走っていたら目に飛び込んでくるような、どでかい看板が立っている初夢を見ました。うちの病院の屋上なんだけどさ「JR札幌病院」って (*^_^*)（ナツ）

発行日／2012年1月15日
編集長／伴　紀宏
編集者／井上　正往・大村　早代・工藤あゆみ・坂本　瑞江・杉村　政樹
夏目　健文・松本　道明・宮本　貴子・若松　修
発行所／札幌市中央区北3条東1丁目
JR札幌病院　広報誌企画編集委員会
http://www.jrsapporohosp.com

JR札幌病院
JR SAPPORO HOSPITAL